



福祉フェスタの出店



ふるさと祭りの神楽上演



権現峠の観光案内

福祉の伴は「元気なまち」です

コロナに負けない！元気なまちづくりプロジェクト。この銘打つ広島市の地域活動支援事業の申請に、伴社協が主体になる「みらいちゃんショップの展開」など学区内の三件が採択されました。別表通り。

みらいちゃんショップは、沼田合同庁舎の交流スペースで令和元年に始めた「とも福祉フェスタ」を発展。障がい者作業所の物品を販売し、地域のみなさんと触れ合う「福祉のとも」発信の記念すべき取り組みになります。

この他、「アートな伴クラブ」の創作神楽「火山」の展開▽伴の古道を生かす「権現峠の全観光資源ブラッシュアップ」の二件です。

火山を題材にした神楽創作事業は、ふるさと祭りなど地域の行事に活用できる舞台の製作も含みます。

広島市が提案した大型の支援事業（補助率9割）は、住民主体の持続的な活動を支援し、地域の魅力と共助の意識を高める目的があります。

元気なまちづくりプロジェクト

事業名称	申請団体と代表者	申請金額
みらいちゃんショップの展開	同ショップ運営委員会 伴晴英代表	200万円
創作神楽「火山」の展開	アートな伴クラブ 秋野征治代表	1,000万円
西風新都に古代歴史シンボルを 権現峠の全観光資源ブラッシュアップ	権現峠の自然をまもる会 山崎勇代表	238万円



沼田公民館の「おかあさんの広場」は、零・一歳児とお母さんのオープンスペースです。ふれあい遊びや音楽会、絵本、人形劇も。社協や女性会、民児協が協力。ボランティアで参加する女性会の池田美代子さんは「日ごろの様子をお聞きしたり、お子さんを抱っこしたり、楽しい時間です」。

毎月第三水曜を原則に午前十時から十一時半まで。



感染症に負けず 支え合いの輪

マスク作りに9団体結集



マスクを手作りする女性たち（5月2日・沼田老人いこいの家）

伴社協は五月、みんなの善意銀行の賛助基金4万円余を活用、手芸や裁縫グループと協力して「みらいちゃんマスク」を作り、小規模の高齢者施設や障がい者事業所に贈りました。一面関連。

コロナ禍でマスク不足が深刻になったために企画。沼田公民館で活動する手芸ひなげしの会、パッチワークグループ、MYソーイングの三団体と障がい者作業所ひだまりの家、工房なども計九団体が協力して布製マスク計八百六十枚を手作り。地域の十二施設に届けました。

池田美代子事務局長は「困難な時、地域の力を合わせることでできた。みなさんの思いをこれから形にしていきたい」と地域の支え合いに手ごたえを感じていました。



交流や見守りを応援 善意銀行助成金

みんなの善意銀行は、地域の福祉活動や貢献活動を幅広く支援しています。昨年十月から申請を受け付け、十一件に物品や資金を助成しました。

感染症対策に要望が強い体温計と手指消毒液をお年寄りのサロン七カ所と三城田集会所、参拝客の多い岡崎神社に提供。グリーンヒル大原の子ども見守り隊に長靴・手袋十八人分を支給。新年度に出店を目指す「みらいちゃんショップ」運営委員会に資材の資金（二十万円）を援助しました。

助成金は、伴地区の社会福祉施設、団体、ボランティアグループを対象に三月末まで申請を募っています。

書面審議で4議案を承認 令和2年度評議員会

伴社協の令和2年度評議員会は、感染症対策のため六月、書面審議し一般会計予算案など四議案を承認しました。

予算総額209万8144円。前年度実績より50万2692円減としました。支出面では、敬老会補助金（一人四百円）が「みんなの善意銀行」特別会計からの支払いに変更。団体助成金等も前年度から善意銀行会計に移しています。

収入では、長年依存した特別会計繰り入れをなくしました。町民（三千五十世帯）が町内会経由で納める会費（一世帯二百円）が61万円と、全体に占める比率は前年度二割余から三割弱と高まりました。

みんなの善意銀行の予算総額は、前年度実績より36万3174円増の367万0081円。収入では賛助会員年会費40万円、支出は「とも福祉フェスタ」5万円、「新しい生活様式」に対応した福祉を創造する新規支援団体補助金50万円を計上しています。